

はじめに

登録販売者試験の出題範囲として、厚生労働省のホームページには「試験問題の作成に関する手引き(令和4年3月)」が公表されています。これは、登録販売者試験の作問の“手引き”となっているため、これに従って学習を進めることが、登録販売者試験の合格への王道になります。

さて、本書は「対策問題」、「パターン分析」、「模試2回分」の三部構成としております。

出題範囲の総ざらいができる「対策問題」は、一度解いて終わりにせず、繰り返し解きながら学習していくことをお勧めします。

登録販売者試験では、“手引き”の内容に加工を施して作問が行われますが、その作問の方法にはいくつかの特徴があるため、これを知っておくと正答を選択する上で有利になる場合があります。代表的な試験問題の作成法を「パターン分析」としてまとめておりますので、作問のクセをつかんでおきましょう。

最後に「模試2回分」を収載しています。これらの模試は、実際の試験と同等の難易度になっています。また、実際の試験でも同様の問題が出題されることとなりますので、試験対策にご活用ください。

なお、令和4年3月の“手引き”の改正に伴って作成された新問には、◎ という印を付けておりますので、判別にご利用ください。

末筆ではありますが、登録販売者試験に挑戦される皆様の合格を心より願っております。

令和4年 初夏
團 野 浩

第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識

1-1 医薬品概論

1 医薬品の本質

〔★ 重要 ◎ 出題範囲の改正(令和4年3月)に伴う新問〕

1-1 医薬品概論 ★

チェック □ □

問1 「医薬品の本質」に関する記述について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品は人体にとって異物である。
- b 医薬品は期待される有益な効果をもたらすものであり、好ましくない反応を生じることはない。
- c 人体に対して使用されない医薬品でも、人体がそれに曝されて健康を害することもある。
- d 医薬品には、検査薬は含まれない。

1(a, b) 2(a, c) 3(b, d) 4(c, d)

1-1 医薬品概論 ★

チェック □ □

問2 「医薬品の本質」に関する記述について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑、かつ、多岐に渡り、そのすべては解明されていない。
- b 一般の生活者においては、薬剤師や登録販売者に相談しなくても、一般用医薬品の効能、効果や副作用等について誤解や認識不足を生じることはない。
- c 医薬品は、効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報が適切に伝達されることを通じて、購入者等が適切に使用することにより、初めてその役割を十分に発揮する。
- d 健康被害の発生の可能性がなければ、製品回収等の措置がなされることはない。

1(a, c) 2(b, c) 3(b, d) 4(a, d)

1-1 医薬品概論 ★

チェック □ □

問3 「医薬品の本質」に関する記述について、誤ったものはどれか。

- 1 一般用医薬品は、医療用医薬品と比較すれば保健衛生上のリスクは相対的に低いと考えられる。
- 2 医薬品は、人の疾病の診断、治療もしくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品である。
- 3 人体に対して使用されない医薬品の殺虫剤であれば、誤って人体がそれに曝されても、健康を害することはない。

パターン分析 A：おかしい用語への置き換え

設問の文中、おかしい用語に置き換わっている場合があります、これが登録販売者試験問題の一般的な作問方法となっています。

実例 A 1 外皮系に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 皮脂腺には、腋窩(わきのした)などの毛根部に分布するアポクリン腺(体臭腺)と、手のひらなど毛根がないところも含め全身に分布するエクリン腺の二種類がある。
- 2 皮脂の分泌が低下すると皮膚が乾燥し、皮膚炎や湿疹を起こすことがある。
- 3 メラニン色素は、表皮の最下層にあるメラニン産生細胞(メラノサイト)で産生され、太陽光に含まれる紫外線から皮膚組織を防護する役割がある。
- 4 真皮には、毛細血管や知覚神経の末端が通っている。
- 5 皮膚に物理的な刺激が繰り返されると角質層が肥厚して、たこやうおのめができる。

答：1

- 1 汗腺には、腋窩(わきのした)などの毛根部に分布するアポクリン腺(体臭腺)と、手のひらなど毛根がないところも含め全身に分布するエクリン腺の二種類がある。

実例 A 2 消化器系に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 胃粘液に含まれる成分は、小腸におけるビタミン B6 の吸収に重要な役割を果たしている。
- b ペプシノーゲンとは、胃酸によってタンパク質を消化する酵素であるペプシンとなり、胃酸とともに胃液として働く。
- c 小腸の運動によって、内容物が消化液(膵液、胆汁、腸液)と混和されながら大腸へと送られ、その間に消化と栄養分の吸収が行われる。
- d 十二指腸の彎曲部には、膵臓からの膵管と胆嚢からの胆管の開口部があって、それぞれ膵液と胆汁を腸管内へ送り込んでいる。

a b c d

- | | |
|-----------|--------------------------|
| 1 正 正 正 正 | 2 正 正 誤 誤 |
| 3 正 誤 誤 誤 | 4 誤 正 正 正 5 誤 誤 正 正 |

答：4

- a 胃粘液に含まれる成分は、小腸におけるビタミン B12の吸収に重要な役割を果たしている。

模試 A

- 1 模試Aは、120問で次のとおりの構成です。
- 第1部 60問 … 試験時間 120分
- 医薬品に共通する特性と基本的な知識（問1～問20）
 - 人体の働きと医薬品（問21～問40）
 - 薬事関係法規・制度（問41～問60）
- 第2部 60問 … 試験時間 120分
- 主な医薬品とその作用（問61～問100）
 - 医薬品の適正使用・安全対策（問101～問120）
- 2 合格の基準は、120問中84問以上の正解、かつ、各章の正解率が35%以上です。

【模試A 第1部 医薬品に共通する特性と基本的な知識】

問1 医薬品の本質に関する記述について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の知見の積み重ねや使用成績の結果等によって有効性、安全性等に関する情報が集積されており、随時新たな情報が付加されるものである。
 - b 検査薬は、その検査結果について正しい解釈や判断がなされなければ、医療機関を受診して適切な治療を受ける機会を失うおそれがある。
 - c 一般の生活者においては、薬剤師や登録販売者に相談しなくても、一般用医薬品の効能、効果や副作用等について誤解や認識不足を生じることはない。
 - d 健康被害の発生の可能性がなければ、製品回収等の措置がなされることはない。
- 1(a, b) 2(a, c) 3(b, c) 4(b, d) 5(c, d)

問2 一般用医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 製品に添付されている文書や製品表示には、効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報が記載されている。
- b 一般用医薬品として販売される製品は、製造物責任法(PL法)の対象でもある。
- c 販売に従事する専門家は、常に新しい有効性、安全性等に関する情報の把握に努める必要がある。
- d 市販後には、有効性、安全性等の確認が行われる仕組みはとられていない。

	a	b	c	d					
1	正	正	正	正	2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正	4	正	誤	正	正
					5	誤	正	正	正

登録販売者試験対策問題・
パターン分析&模試2回分
手引き(令和4年3月)対応



別冊 解答編

対策問題 解答

●第1章	医薬品に共通する特性と基本的な知識	263
●第2章	人体の働きと医薬品	267
●第3章	主な医薬品とその作用	272
●第4章	薬事関係の法規・制度	286
●第5章	医薬品の適正使用・安全対策	296

模試2回分 解答

●模試	A	301
●模試	B	314

矢印の方向に引くと、取り外すことができます。



対策問題 解答

<第1章>

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1 正答：2

- b 医薬品は、必ずしも期待される有益な効果のみをもたらすとは限らず、好ましくない反応を生じる場合もある。
- d 殺虫剤や検査薬など、人体に対して使用されない医薬品もある。

問2 正答：1

- b 一般用医薬品の添付文書や製品表示に記載された内容を見ただけでは、その効能、効果や副作用等について誤解や認識不足を生じることもあるので、その販売には専門家が関与し、適切な情報提供を行い、また、相談に対応することが不可欠である。
- d 医薬品医療機器法では、健康被害の発生の可能性の有無にかかわらず、異物等の混入、変質等がある医薬品を販売等してはならない旨を定めており、製造販売業者による製品回収等の措置がなされることもある。

問3 正答：3

- 3 人体に対して使用されない殺虫剤の中には、誤って人体がそれに曝されれば健康を害するおそれがあるものがある。

問4 正答：2

- d 医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見、使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる仕組みになっており、それらの結果を踏まえ、リスク区分の見直し、承認基準の見直し等がなされる。

問5 正答：2

問6 正答：3

- b 医薬品の効果とリスクは、用量と作用強度の関係(用量－反応関係)に基づいて評価される。
- c 薬物用量の増加に伴い、無作用量から、最小

有効量を経て治療量に至る。

問7 正答：1

問8 正答：2

- b 臨床試験の実施の基準として、国際的に GCP が制定されている。
- d 医薬品の製造販売後安全管理の基準として GVP が定められている。

問9 正答：5

- a 特定保健用食品は、個別に(一部は規格基準に従って)特定の保健機能を示す有効性や安全性等に関する国の審査を受け、許可されたものである。

問10 正答：1

- d 適切な健康管理の下で医療用医薬品からの代替を進める観点から、条件を満たした場合にスイッチ OTC 医薬品の購入の対価について、一定の金額をその年分の総所得金額等から控除するセルフメディケーション税制が導入されている。

問11 正答：1

問12 正答：2

- a 医薬品の副作用は、発生原因の観点から薬理作用によるものとアレルギーに大別することができる。
- b 医薬品の有効成分である薬物が生体の生理機能に影響を与えることを薬理作用という。
- c 医薬品が人体に及ぼす作用は、すべてが解明されているわけではないため、十分注意して適正に使用された場合であっても、副作用が生じることがある。

問13 正答：3

- 3 一般用医薬品の場合、一般の生活者が自らの判断で使用するものであることにかんがみて、副作用の兆候が現れた場合には、その使用を中断することによる不利益よりも、重大な副作用を回避することが優先され、基本的に使用を中止することとされている。

問14 正答：3